

第6回 磯辺地区学校適正配置地元代表協議会

1 日 時 平成21年1月26日(月) 10時00分～12時00分

2 場 所 磯辺地域ルーム(磯辺第一中学校内)

3 出席者

(1) 委 員

※欠席委員：篠原委員、大川委員、住友委員

(2) 事務局

山崎課長、古館主幹、加茂主査、伊藤主査補、齊藤主事

(3) 傍聴者 13名

4 議題

(1) 磯辺地区の適正配置の方向性について

(2) 次回開催日時・場所について

5 会議資料

(1) 資料1 磯辺地区の適正配置【参考シミュレーション】(20年12月版)

(2) 資料2 磯辺地区学区図

(3) 資料3 今年度推計による磯辺地区の小・中学校の状況について

(4) 資料4 学校の適正規模について

6 議事の概要

(1) 磯辺地区の適正配置の方向性について

磯辺地区適正配置の方向性について、まず、「小学校の適正配置について」の協議を行い、「参考統合シミュレーション4」の方向で話し合っていくことが決定した。

(2) 次回開催日時・場所

平成21年2月23日(月)午前10時から12時、磯辺地域ルームで開催することとした。

7 発言要旨

(1) 磯辺地区の適正配置の方向性について

〈鳥越議長〉

- ・前回、磯辺地区の適正配置の方向性について、大きく二点協議すべき問題が洗い出された。
- ・一つは、小学校の統合について、企業庁から借用している土地、特に磯辺第一小の脇にある運動場について、開発の可能性を考慮する必要があるのではないか、という点である。もし、開発の可能性を考慮する必要があるのであれば、磯辺第三小を残すことが考えられる。
- ・もう一つは、小学校の統合を先に協議し、その後時期を見て中学校の統合について協議していくのか、それとも、小学校の統合と中学校の統合を同時に協議していくのか、という点である。
- ・問題点を整理しながら、順次協議を進めていきたい。初めに、「小学校の適正配置について」協議し、方向性をまとめていきたいと思う。次に「中学校の適正配置の必要性について」協議していただきたい。なお、統合する場所や跡地の利用の問題については、方向性を定めた後の議論とする。
- ・学校適正配置の趣旨は、より良い教育環境の整備と教育の質の充実にある。地域や保護者にとっての学校の在り方も重要だが、最も重要なことは、子どもたちにとっての学校の在り方だと思う。色々な考え方もあると思うが、最終的には、この磯辺地区の子どもたちの教育環境をいかにすべきかとの視点で協議いただき、磯辺地区の方向性をまとめていきたい。事務局より小学校の適正配置について補足説明があればお願いする。

ア 小学校の適正配置について

〈事務局〉

- ・前回、磯辺西郵便局の脇に建設予定の5階建て住宅について予想される発生児童・生徒数についての質問があったので、説明する。面積は2,300平方メートルで、戸数は50戸の集合住宅である。学区の児童生徒の発生率は0.33なので、未就学児が約10人、小学生が約5人、中学生が約2人、合計で17人程の子どもが発生すると予想される。
- ・次に話し合いの枠組みと学区との関係について、再度確認しながら「小学校の適正配置について」補足説明をしたい。

1 磯辺地区の話し合いの枠組みは、平成19年11月6日に行われた「磯辺地区と高洲・高浜地区の話し合いの枠組みに係る検討会」において、海浜松風通りで区切ったものになった。具体的には、

- (1) 高洲4丁目と高浜5丁目は、現行の学区の通り、磯辺地区の協議会のみに加わる。
- (2) 高浜第二小学校区内にある高浜3丁目と高浜6丁目は、磯辺地区と高洲・高浜地区と両方の協議会に加わる。
- (3) 話し合いの枠組みと、学区については別であり、磯辺地区と高洲・高浜地区の両協議会の中で検討していく。

- 2 小学校の「参考統合シミュレーション1～4」は、現行の磯辺地区の学区を基本に高浜6丁目や高浜3丁目を加えた場合を示したものである。これまで要望はなかったし、あまり現実的なものとは思えないが、例えば、高洲4丁目を高洲第三小の学区に組み込んだり、高浜5丁目を高浜第三小の学区に組み込んだりするシミュレーションも出すことは可能である。
- 3 もし、高洲4丁目と高浜5丁目は現行の学区通りという了解が得られるのであれば、残る問題は、高浜第二小学区である高浜3丁目と高浜6丁目の扱いということになる。
- 4 前回は説明したが、「参考統合シミュレーション1」は、統合校同士の規模にアンバランスがあり、特に磯辺第二小・磯辺第四小の統合校は、せっかく統合してもいずれまた規模が小さくなってしまう可能性がある。これは、第一次の取組みの際にも指摘されたことである。
- 5 「参考統合シミュレーション2」は、統合校同士の規模のバランスは取れるが、通学距離のバランスは悪くなる。
- 6 「参考統合シミュレーション3」は、統合校同士のバランスも通学距離のバランスも悪くないが、磯辺第一小が二つに分断されてしまう。
- 7 「参考統合シミュレーション4」は、磯辺第三小をそのまま残すことになるが、統合校は18学級の最適規模になるという利点がある。なお、磯辺第三小については、現在の推計では、ほぼ12学級以上を維持できると考えられる。
- 8 もし、磯辺第一小脇の運動場の開発を最大限に考慮した場合、開発によって増えた児童を、参考統合シミュレーション1～3の統合校に受け入れると、大規模校となってしまう。その場合は、「参考統合シミュレーション4のア」のように、磯辺第三小を現行のまま単独で残せば受け入れは可能であるが、高浜第二小全体を磯辺第三小と統合した「イ」の場合は教室が足らなくなり、受け入れは難しい。なお、高浜6丁目の児童を加えた「ウ」でも受け入れは可能だが、高浜第二小が二つに分断されてしまうことになる。

〈鳥越議長〉

事務局からの説明を参考に、意見交換をお願いする。

〈村上委員〉

前回からの議論のなかで、小学校の方向性をまず決めるということになったが、まず初めに、中学校も一緒に統合するのかを議論するべきだろう。

〈鳥越議長〉

まず小学校の適正配置について協議し方向性を定め、次に中学校について議論していきたい。

〈寺山委員〉

中学校の統合を小学校の後にするというのではなく、中学校について検討することを小学校の方向性を定めた後にすると理解してよいか。

〈鳥越議長〉

その通りである。

〈橋爪委員〉

前回の協議会の内容を元にして、保護者へアンケートを実施した。回答率は13%で、保護者からは「小学校をまず決めてほしい。」「参考統合シミュレーション4のウがよいのではないか。」という意見が出た。「磯辺第一小脇の開発を見越してこのシミュレーションがよい。」というよりも、「大通りを渡らないから安心である。」という理由が多い。ただ、開発が行われて磯辺第一小脇から児童が通うことになるので、その点はとても気にかかることです。また、「現在の経済状況下で、開発は必ず行われるのか。仮に開発が行われなかった場合、磯辺第三小は適正規模ではなくなり、専科教員が配置されない規模になってしまうのではないか。そうなった場合、市としてどのような対処を行ってもらえるのか。」「統合して適正規模になったとしても、いずれまた子どもが少なくなるかもしれない。そうなった場合、教員配置と児童数の基準について、再度話し合っていたきたい。」という意見があった。

〈木下委員〉

前回の協議会での私の発言の一部に、「シミュレーション3」がよい、という意味にとられる恐れのある部分があったので、誤解がないように議事録を修正させていただいた。言いたかったことは、「統合校のバランスを考えた場合、このシミュレーションを選択することも仕方ないこともあろうが、磯辺第一小が二つに分かれてしまうことには不安がある。」という意味である。磯辺第一小の役員会では、シミュレーション3よりも、磯辺第一小が二つに分かれる必要のない、「シミュレーション4」の方がよいとの意見が多数を占めた。また、現在の中学校区の分け方に疑問があるので、統合後の中学校区がどうなるのか、保護者にとって非常に关心的问题である。小学校の方向性を定めた後、中学校について検討する際に協議したいと思う。

〈西村委員〉

磯辺第一小脇の開発がどうなるかわからない状況の中で統合の協議を進めていくことに疑問がある。また、「シミュレーション4」にした場合、統合校の子どもたちはマリーナストリートを渡らずに通学できるが、開発された場所の子どもたちは、マリーナストリートを渡らなければならなくなり、かわいそうではないか。開発の状況が確定するまで、協議会での話し合いを止めておくべきではないか。

〈近藤委員〉

現在の学区を基本として適正配置を考えるのか、それとも新たに行政区で考えていくのか。現在の学区の変更をすることもいいのか、先に決めるべきではないか。

〈鳥越議長〉

自分の住んでいる磯辺6丁目は、今年度からは（真砂地区から磯辺地区へ編入しており）行政区と学校区が一致したが、それまでは行政区は磯辺の第33地区連、学校区は真砂第一中学校区という状況で、地域の情報が入ってこないということがあった。適正配置をしていく上で、行政区と学校区は是非一致させてほしいし、今は、それを行うチャンスでもある。

〈事務局〉

磯辺第一小脇の開発はどうか現時点ではわからないが、可能性は排除できない。その可能性を無視して統合すると、将来開発があったときに増えた子どもを受け入れ可能な学校がなくなる恐れがあるし、そのとき、学校を再度分離させるとしたら何のために統合したのかわからない。だからと言って、現状の磯辺地区の小規模校の状況を考えると、開発の可能性がはっきりするまで待っているわけにはいかない。適正配置をすることにより、学年当たりの学級数や教員の数を増やし、子どもたちに多様な活動ができる機会を与え、多くの先生方の目で子どもたちを指導するとともに事務負担を減らすなどして、より良い教育環境づくりをなるべく早く行いたい。磯辺第三小を残しておけば、今言った両方の条件をクリアできるのではないか。磯辺第三小は平成26年度までは12学級規模を維持できると予想されるが、専科教員の配置基準は、13学級が目安になるので、例えば磯辺地区には設置されていない特別支援学級の設置について要望を出していくことも考えられる。また、行政区と学区の整合をとることは実施方針にも示されている。大きな通りで学区を分ける必要があるとすれば、地区連組織の再編成についても検討する必要があるだろう。子どもにとって一番よい選択を考えていただきたい。

〈鳥越議長〉

学区と行政区は一致させ、ねじれがないことが重要である。学校（育成委員会）の情報と行政（自治会組織）の情報の両方が住民に入るようにする必要がある。

〈吉岡会長〉

みなさんの意見を伺ってきたが、私は、「シミュレーション4」が一番よいと思う。

〈松岡委員〉

磯辺第一小脇の開発を見込んで、「シミュレーション4」にしたいということは、高浜第二小は二つに分かれてほしいということか。

〈事務局〉

（先ほど磯辺第一小学校の保護者会長からもあったように）確かに、現行の学区を分断することは望ましくない。磯辺第一小脇の開発を見込み、かつ高浜第二小を二つに分けないためには、高浜第三小と統合する「シミュレーション5」となるだろう。ただ、海浜松風通りを渡って通学させることに問題もあると考えるのなら、高浜第二小を二つに分けることも考えられる。このあたりについては、地域の方や保護者の方の意見を調整していかざるを得ないだろう。

〈鳥越議長〉

高浜3丁目と高浜6丁目の中学校区についてはどうなるのか。

〈事務局〉

統合して学区が変わる場合には、弾力的に対応していきたい。

〈松岡委員〉

高浜第二小として、統合に伴い二つに分かれるかどうかは保護者の話し合いが必要であるが、磯辺第一小脇の開発を見込んだ場合、「高浜第二小全体を磯辺地区に入れて欲しい」と要望しても、入れてもらえないのではないか。

〈西村委員〉

小学校は現在の4校を統合して2校にしなければならないのか。磯辺第一、第二、第四小のうち2校を残せば、マリーナストリートを渡らずに通学できるし、開発があっても増えた子どもたちを受け入れられるのではないか。

〈大浦委員〉

現時点で、不確定要素について話し出すと協議が進まない。適正配置について話し合う上で、開発を考慮に入れるのか、入れないのか。私は、考慮しないで話し合い、仮に開発で子どもたちが増えた場合は、そのとき、どこの学校が受け入れるか考えて対応すればよいと思う。

〈村上委員〉

適正配置は現行の学区で考え、子どもが増えたから追い出すということはないだろう。

〈大浦委員〉

あらためて見ると、高浜地区は複雑なかたちをしている。高浜地区の話し合いはどのように進んでいるのか。

〈事務局〉

高浜第二小は、高洲・高浜地区の協議会にも入っており、そちらでのシミュレーションの一つは、「シミュレーション5」である。磯辺第一小脇の開発については、将来どうなるかわからないが、最大に見積もった場合に発生する子どもたちは、磯辺第三小を残しておくことで受け入れを可能にしておくというのが、一つの考え方である。また、大きな通りを基本にして適正配置を進めるべきではないかというのも、一つの考え方だろう。以上を考え合わせると、「シミュレーション4のウ」になるだろう。一方で、現在の学校区はできるだけ分けない方がよい、という考えもある。高浜3丁目、高浜6丁目の意向や高浜第二小全体としての意向を組み合わせ考えていただきたい。

〈山根委員〉

実際に開発があってから受け入れる学校について協議することは難しいだろう。少しでも可能性があるのなら、それを考慮した想定をした方がよい。そうすると、「シミュレーション4」がよいと思う。保護者の意見はあるだろうが、高浜6丁目のみを加えたウが一番望ましい形ではないか。高浜第二小を分けることが難しいのであれば、イにして、多少大規模になることを覚悟しておけばよいのではないか。開発も想定した上で、「シミュレーション4」を検討していけば、高浜第二小全体を磯辺に入れるのか、それとも分けるのかということが論点になるだろう。また、開発があったとき、増えた子どもの全てを磯辺第三小で受け入れるのではなく、一部を磯辺第一・第二・第四小の統合校が受け入れるということも考えられるだろう。

〈鳥越議長〉

「シミュレーション4」の考え方について再度説明するとともに、「シミュレーション5」の高浜第二小と高浜第三小の統合について説明していただきたい。

〈事務局〉

その前に、磯辺第一小の脇の土地について再度確認したい。この土地は28,560平方メートルで、土地の用途は中高層住宅なので、集合住宅が建設される可能性がある。そうなった場合、約900戸規模で、約300人の子どもが発生するうち、小学生が約200人、中学生が50～70人ほど増えることが予想される。統合について話し合う上で、そうなった場合の対応策も考えていかなければならない。

「シミュレーション4」の説明をしたい。第一次の取り組みの際に、磯辺第二小と第四小を統合する案があったが、統合しても結局また小規模校になってしまう恐れがあるため、磯辺第一小学校も含めた統合についても検討された。このことが今回の第二次の取り組みに引き継がれている。(なお、磯辺第一小、第二小、第四小のうち2校を残すということは、結局磯辺第二小と第四小を統合し、磯辺第一小を残すことになり、第一次の取り組みに話が戻ってしまう。) 磯辺第一小と第二小と第四小を統合すると、学区はマリーナストリートが境界となり、統合校の規模は18学級になると予想される。4のアは、現行の学区で、磯辺第三小を残すというもので、平成26年度で12学級規模と予想される。4のイは、高浜第二小全体を磯辺第三小と統合することになるので、高浜3丁目・6丁目は「磯辺地区」だということになるだろう。その場合は、統合校は15学級規模になる。磯辺第三小の普通保有教室数は19教室なので、この規模であれば受け入れは可能だろう。ただし、万一磯辺第一小脇の開発があり、小学生が最大200人発生したとすると、仮に特別教室に改修した教室を普通教室に戻しても、22教室であり、教室が足りなくなると推測される。4のウは、高浜6丁目のみが、磯辺第三小へ学区の変更をしたという考え方になるだろう。海浜松風通りで学区が分かれるので、きれいな区切りにはなる。その場合、磯辺第三小は12学級規模になるので、特別支援学級を設置すれば、専科教員が配置される規模になる。

「シミュレーション5」は、高浜第二小と高浜第三小との統合をした場合どうなるかシミュレートしたものであり、統合校は12学級規模になる。ここから高浜6丁目のみを外しても、12学級規模にはなるだろう。よりよい学区割りと組み合わせを考えていただきたい。

〈山崎委員〉

高浜3丁目自治会だが、過去に、中学校が高浜中から磯辺第二中に変った経緯がある。現在、高洲・高浜地区と磯辺地区と二つの協議会に参加しているが、住民にアンケートを取っても、高浜中には行きたくないので、磯辺第三小と統合したいという意見がとても多い。現在、高浜中は荒れ始めたと聞いているし、やはり磯辺第二中に行きたい、だから磯辺地区と統合したい、という意見も多い。海浜松風通りで学区を分けるという考えはしてほしくない。せめて、中学校は磯辺第二中となれば住民は納得するだろうが。

〈別所委員〉

それは磯辺第二中が現状のままということが前提だろう。

〈事務局〉

前にも説明したが、高浜第二小の中学校区を変更することになっても、変更前の学校へ通える措置はとることになっている。例えば、仮に高浜第二小が高浜第三小と統合した場合、統合校の中学校区は高浜中になるが、現在、高浜第二小学校区の子どもたちは磯辺第二中に通っているということを考慮して、統合校が開校した年に在籍している子どもたちについては、磯辺地区の中学校への通学を認める措置をとる。未就学児については、中学校入学は7年後の話になり、それまでに友達関係も形成されているだろうし、今から通学する中学校を決めておきたくないが、それについても、個別に柔軟に対応していく。統合の際の要望書の中に、今言った中学校の学区の取り扱いについても入れていただいたらどうか。

〈山崎委員〉

過去に、高浜中から磯辺第二中へ変わった経緯がある。書面で示していただかないと住民が納得しない。

〈別所委員〉

事務局の発言は議事録に記録として残るので心配はないと思う。

〈都委員〉

「シミュレーション4のウ」にした場合にも、学区の弾力的な扱いはあるのか。

〈事務局〉

「シミュレーション4のウ」が行われるということは、高浜6丁目が磯辺第三小学校の学区になるということである。その時の在校生については、引き続き高浜地区の統合校も選べるし、磯辺第三小に行くこともできる。また未就学児についても、兄弟関係で下の子どもも上の子どもと同じ学校に通学したい場合は、高浜地区の統合校に通うことができる。

〈鳥越議長〉

今、現実に磯辺6丁目も学区外の学校への通学について、個別に対応していただいている。

〈寺山委員〉

企業庁の土地が民間に売却される場合には、磯辺地区の住民の意見を企業庁に要望し、住民の意向が反映できるのではないかと。周辺住民の皆さんは、高層住宅が建設されることや地域の人口が増えることについて、どのような意向をお持ちなのだろうか。

〈鳥越議長〉

企業庁に話を聞きに行った際、平成22年までは現状のまま運動場として使用し、その後は、市に取得してもらえればありがたいが、そうでなくても千葉市と話し合っただけで済ませたいということだった。結果は、第33地区連絡協議会に伝えることになっている。地域住民の要望は、前もって市へ陳情してほしいということだった。地域として要望すれば、地域住民の要望を考慮してくれるかもしれない。具体的には、市が取得しないと決まった後に、改めて考えるそうである。

〈藤岡委員〉

このような経済状況下でも磯辺6丁目には集合住宅が建設されたし、磯辺第一小脇にも、高層住宅が建設されるのではないか。今後、景気も回復していくだろう。住民が建設に反対したとしても、法律に違反しないのであれば建設されるだろう。市が取得してくれることが一番よいが、市の財政は赤字なので、あまり期待できないだろう。

〈鳥越議長〉

「シミュレーション4のアカウ」に絞られてきたと思う。現行の磯辺地区の中だけでの統合にするか、そこに高浜6丁目を加えるかということになると思うが。

〈寺山委員〉

シミュレーションのどれがよいか決めるのは、まだ早いのではないか。

〈鳥越議長〉

本日の目標は、小学校の適正配置の方向性をまとめることにある。「シミュレーション4」の中でどれがよいか決めていくのがよいと思う。

〈寺山委員〉

磯辺第二中の保護者へ意識調査をした。回答率は40%ちょっとだった。「1. 中学校は早く統合した方がよい」、「2. 小学校の統合が落ち着いてから中学校を検討する」、「3. 小・中学校ともに、もう少し状況を見極めてから統合を検討する」、「4. 中学校は統合の必要はない」の四つの項目で質問したところ、項目2、3に賛成する保護者が多かった。「2. 小学校の統合が落ち着いてから中学校を検討する」は34%、「3. 小・中学校ともに、もう少し状況を見極めてから統合を検討する」は38%だった。このような声が多い状況の中でも、今、方向性を決めなければならないのだろうか。このような中で、「シミュレーション4に決め、アカウかを選ぶ」ということは、団体の代表としてできないと思うのだが。

〈鳥越議長〉

適正配置の方向性は、今年度中に決めたい。4月に委員が変わってまた振り出しに戻ることはしたくない。今まで各団体でも話し合いを重ねてきているし、そろそろ、どのシミュレーション沿って進めていくのかを決めたいと思う。

〈寺山委員〉

保護者は今半々の意見だと思う。今日の流れをまだ学校でも保護者に話していないだろうし、ここでもう協議会の意見として決めてしまっているのだろうか。いったん、学校や地域に投げかけ、次回意見を持ち寄るのがよいのではないか。4月に委員が変わるという問題もあるが、慌てて決めてしまわない方がよいと思う。磯辺第二小や磯辺第四小は、現在小規模校だが、早急な統合を必要とする声が多いのだろうか。急ぐ必要がないと言いたいのではなく、そういう考えはできないのか、という投げかけである。ある地域では、開発の可能性があるので、その状況が決まった時点で、協議会に加わるかどうか決めるそうである。状況を見極めず、結論を急がなければならないのだろうか。

※真砂1丁目は、「実施方針」では稲毛海岸・高洲地区になっているが、真砂地区の協議会に加わりたいとの『要望書』が平成20年10月に提出されている。『要望書』の主な趣旨は、真砂1丁目にある真砂第五小学校の小規模校化については改善の必要があるが、現在真砂1丁目団地の建て替え計画があり、その方向性の定まる平成21年6月ころまでは、真砂地区への参加を見合わせるので、それまでは現行の真砂地区で協議を進めていただき、その間の協議事項は尊重する、というものである。したがって、開発の状況にかかわらず、「実施方針」で示した枠組みの中で真砂地区の協議は進められており、現在、真砂地区としての適正配置の方向性がまとまりつつある。

〈山崎委員〉

「シミュレーション4のウ」にするとすることは、高浜3丁目の自治会や高浜第二小の保護者会の意向は無視するという事だろう。適正配置の方向性は協議会で検討し、協議の結果、統合が好ましくないのであれば、やめることもあり得るだろう。高浜第二小や高浜3丁目を見捨てるのであれば、統合に反対せざるを得ない。

〈村上委員〉

今日の話合いの内容を、もう一度、各団体に持ち帰ることが必要ではないか。急ぐことはない。ただ、全国的にも統廃合が進まないのは、住民や保護者、みんなの意見を聞きすぎているせいではないかと思う。

〈大浦委員〉

「学区を大きな通りで分ける」、「高浜第二小を入れる・入れない」等、何パターンかにまとめて話を進めていけばよいのではないか。

〈村上委員〉

ここでシミュレーションをいくつかまとめて、各団体に持ち帰る必要があるのではないか。

〈西村委員〉

磯辺第二小は統合を急いではいない。現在、小規模校でもうまくいっている。磯辺地区の方向性を考えるのであれば、企業庁の土地の将来も考えるべきである。「シミュレーション4のウ」であれば、マリナーズトリートを渡らないと説明しているが、磯辺第一小脇に開発があれば、子どもたちはそこを渡ることになる。説明が矛盾しているのではないか。

〈藤岡委員〉

大きな通りを渡って通学することに対しては、あまり心配する必要はない。大きな通りは信号があるのでむしろ安全だし、通学路ではセーフティウォッチャーが子どもたちを見守っているので、安心していただきたい。

〈村上委員〉

子どもの道路横断時の安全性の確保は、保護者及び地域社会が対応していくべきものである。道路の大小は一義的ではない。道路は物理的区分けの一つにすぎない。この意味から、道で学区を分ければ良いというものでもないだろう。

〈石毛委員〉

適正配置の方向性が見えないと、保護者の不安は大きい。磯辺地区の将来を考えると、いつかは適正配置を行わなければならないだろう。いつか行うのであれば、今回の第二次の取組みで前向きに進めていくのがよいのではないか。

〈石塚委員〉

藤岡委員は、セーフティウォッチャーとして毎日、通学路の安全を見守って下さっており、通学路のことは藤岡さんに聞いたほうがよいくらいである。先ほどの「通学路の安全について、保護者の方は安心していただきたい。たとえ大きい通りを渡ることになったとしても、安全は確保される」というのは、その立場からの発言である。子どもたちにとって、通学路に知っている地域の人がいるということは、一番安心なことだろう。

〈藤岡委員〉

現在、磯辺第二小では先生と保護者と一緒に通学路を見守っている。見ていると、信号を守らないのは、自転車に子どもを乗せて急いでいるお母さんだったり、通勤中の人だったり、むしろ大人の方である。まず、大人が交通ルールを守って子どもたちに示していかなければならないだろう。高校生は、最初は交通ルールを守っていない子もいたが、毎朝会っているうちに、挨拶までしてくれるようになった。最もダメなのは大人であり、子どもたちは交通ルールを守って通学している。

〈木下委員〉

現在、磯辺第一小は一学年80人前後の学年があり、2学級になるか3学級になるか微妙なところで、状況によって、26～27人の学級になる場合もあれば、40人近くの学級になる場合もある。役員会では「保護者が気にするのは、学校の規模というより、学級の人数なのではないか。」という指摘があった。確かに、学級の人数は少ない方がきめ細やかな指導ができてよいと思うが、数人の転出入によって学級の人数は大きく変わっていく。「規模が大きいほど学級の人数も多い」というのは、あくまでも可能性の問題であって、必ずしも比例しないことは、一小の保護者は実感している。それより、学校にある程度の規模があり、クラス換えが行える方がよいという考えの保護者が多い。磯辺地区の中で教育環境に差があることはよくないと思うので、適正配置を行うことにより、同じ教育環境を整備する努力が必要ではないか。

〈松岡委員〉

シミュレーションをしぼって、方向性を決定していくことはよいと思うのだが、高浜第二小は、高洲・高浜地区の協議会にも参加わっているの、磯辺地区だけ先に決まってしまうと、両方の協議会に参加している意味がないし、こちらだけ先に決まってしまうと、困惑する保護者も多く、不安も大きくなるだろう。高浜第二小は高浜にあるが、現在、磯辺地区の中学校へ通っている。高浜第三小と統合すると、中学校も高浜地区の中学校へ通うことになり、地区ごと高浜に組み込まれることになるので、保護者へ十分に説明し、納得してもらうまでに時間が必要である。高浜地区の適正配置の方向性も出ていないし、保護者もまだ整理ができておらず、判断しかねているという状況もあるので、磯辺地区の方向性を決定することは、もう少し待っていただきたい。

〈山崎委員〉

高浜3丁目は、中学校が高浜中学校になることに不安がある。統合した際に外国人の子どもと一緒に学ぶことに不安がある。磯辺地区だけ話し合いが進んで方向性が決まってしまうと、高浜地区との整合性がなくなってしまうだろう。

〈吉岡会長〉

他の地区に合わせていくよりも、磯辺地区としての方向性を決めた方がよいのではないか。

〈山崎委員〉

「シミュレーション4のアカウカ」ということになると、磯辺地区に入ることを希望している高浜3丁目の住民を無視しているのではないかと捉える。高浜第二小では、磯辺地区に入りたいと考えている住民も多いので、そこを含んだ議論をしていただきたい。

〈吉岡会長〉

考慮してほしいと言うだけでなく、高浜3丁目、高浜6丁目、高浜第二小の意見としてどうしたいのか、きちんと意見を出していただきたい。いつまでに意見をまとめる等を決めていただきたい。

〈藤岡委員〉

こうしてみると、高浜地区は複雑で統合するとなると難しいようだ。高浜地区として、意見を述べていただきたい。住民が磯辺地区へ入ることを望んでいるのであれば、それを前提にして、方向性を話し合っていくべきだろう。

〈山崎委員〉

住民の多くは、磯辺地区へ入ることを望んでいると思う。

〈事務局〉

吉岡会長の話は、磯辺地区は磯辺地区としての考えをまとめていき、高洲・高浜地区は高洲・高浜地区としての考えをまとめ、それぞれの意見を持ち寄り、調整していこうということと理解した。協議を聞いていて感じたことは、まず現状を何とかしたい、適正配置はやらなければならないという共通理解はあるので、小学校を統合する方向で話し合うことには異論はなく、どのような組み合わせがよいのか考えると、磯辺地区としては、「シミュレーション4」がよいのではないかと、ということではないか。マリーナストリートを渡る必要がなくなることは結果論で、それを理由にこのシミュレーションがよいと言っているのではなく、磯辺第一小が分断されなくなるということが一番の理由であろう。（その際、中学校区をどうするかは、中学校の適正配置を協議する時の問題である。）「シミュレーション4」とした場合、「ア、イ、ウ」という選択肢がある。その際、「ア」と「ウ」は、磯辺第一小脇の運動場の開発をあらかじめ考慮し、発生する児童は磯辺第三小に収容するということであり、「イ」は、開発は考慮せず、あった場合は、その時点で方策を考えるということである。また、「イ」にするということは、高浜第二小学校は、磯辺地区に入ることである。（また、「ウ」にするということは、海浜松風通りで磯辺地区と高洲・高浜地区の学区を分けるということである。）ただ、高浜第二小学校に関係する保護者と自治会は高洲・高浜地区の協議会にも参加しており、そちらの地区としての高浜第二小の立場もあるだろう。現在高洲・高浜地区の協議会でも、シミュレーショ

ンをいくつか提示して協議を行っているので、そちらでの方向性がまとめられれば、その両方の協議結果を踏まえて、高浜第二小学校区に関係する保護者と自治会の意向もまとめやすいと考える。そこで、高浜第二小の保護者会長及び高浜3丁目・高浜6丁目の代表の方々には本日の話し合いの内容を持ち帰っていただき、高洲・高浜地区での協議結果も踏まえて、次回の協議会に、それぞれの団体としての意見を持ってきていただきたい。また、必要があれば、事務局が説明に伺いたい。

〈山崎委員〉

どうしてもシミュレーションの方向性を決めるのであれば、「シミュレーション4」にして、高浜第二小学校は磯辺地区の学校とも統合できるようにしておき、それからどうするかを話し合っていけばよいのではないか。

〈吉岡会長〉

現段階では、「シミュレーション4のア・イ・ウ」に限定することはできない。「シミュレーション4」の方向で話し合っていくこととし、今回は、どれがのぞましいかということ論点にし、磯辺地区の小学校の適正配置の方向性を決めていきたいが、いかがか。

〈鳥越議長〉

それでは、磯辺地区としては「シミュレーション4」の方向で話し合っていくということでまとめたい。今回は、「シミュレーション4」のどれが磯辺地区の小学校の適正配置の方向性としてふさわしいかを検討し、その後中学校の適正配置の方向性について協議していきたい。